

## 平成 29 年度 利用適正化実験の実施結果概要と今後の予定について

### 1. 春期利用適正化実験について

#### 1) 準備および実施概況

3 月 3 日	知床五湖の利用のあり方協議会にて実験実施について合意。
3 月 8 日	実験協力引率者の募集。23 名の登録引率者が参加表明。
3 月 21 日	実験ツアーの予約開始。
4 月 13 日	事前説明会の開催。実施要項、予約方法、ガイドライン等の説明を実施。
4 月 14 日	実施。
4 月 17 日	事務局および登録引率者代表による現地下見。モニタリングサイトの選定。
4 月 20 日	モニタリングサイトの設置。モニタリング調査開始。
4 月 25 日	実験ツアーを当初予定通り開始。利用者アンケート調査の開始。
5 月 6 日	大ループコースの一般供用開始。実験は継続。
5 月 9 日	実験ツアーが当初予定通り終了。(15 日間)
5 月 10 日	モニタリング調査終了。モニタリングサイトの撤去。

#### 2) 実施結果

- ・ 期間中、おおむね好天が継続。道路閉鎖等も発生せず。特に連休中は快晴となり、園地全体としても 4,786 名と過去最高の認定数を記録するなど、安定的な状況。
- ・ 積雪も全体として少なく、融雪も早いスピードで進行。実験開始時の積雪はおよそ 60 cm (FH 前) で 5 月 1 日にはほぼ消失。5 月 6 日からは大ループが一般供用された。
- ・ 期間中、64 組 308 名（引率者除く、1 日平均 4 組 21 名）のツアー参加者あり。5 月から増加し、連休中日の 5 月 4 日が最高で 13 組 83 名の参加数。通常ヒグマ活動期（5 月）の大ループツアー参加者（今年度）は、285 組 1,432 名（引率者除く、1 日平均 13 組 65 人）、ピークは 5 月 27 日の 23 組 139 名であった。
- ・ 全体認定数とツアー参加者数に良好な相関あり。全体の約 1 割弱がツアー参加。今後のニーズ把握に示唆的。
- ・ 制度改定の賛意は、ツアー参加者と非参加者で大きく意見が分かれた。ツアー参加者の 81%が「望ましい」「大変望ましい」としたのに対し、非参加者は 32%であった。
- ・ 期間中、園地内でのヒグマ目撃は発生せず。予約受付、ツアー実施における大きな混乱やクレームはなかった。

表 1—1. 植生保護期（春）における認定者数と実験ツアー参加数

	天気	地上歩道全体		実験ツアー		
		申請数	認定数	申請数	認定数	ツアー参加数
4月20日	雪/曇	9	15			
4月21日	曇/晴	5	10			
4月22日	晴/曇	23	59			
4月23日	雪	20	41			
4月24日	曇/晴	15	30			
4月25日	晴	14	33	1	5	4
4月26日	曇/晴	21	54	2	7	5
4月27日	曇/晴	12	24	1	2	1
4月28日	曇/晴	24	51	2	9	7
4月29日	晴;雨	42	90	0	0	0
4月30日	晴/曇	104	245	5	23	18
5月1日	晴/曇	170	364	10	46	36
5月2日	雨/晴	176	390	5	33	28
5月3日	晴	288	671	7	39	32
5月4日	晴	373	1008	13	96	83
5月5日	晴/曇	355	897	9	73	64
5月6日	曇（強風）	191	486	5	29	24
5月7日	晴（強風）	74	162	0	0	0
5月8日	曇/雨	22	39	1	2	1
5月9日	晴	61	117	3	8	5
計		1999	4786	64	372	308

### 3) 課題

- 残雪が少なく、当初計画していた検証項目の評価が不十分で積雪状況等のデータの蓄積が必要。
- 小ループの取り扱い、引率資格の要件など制度改定後の実際の運用を想定し、さらなる検討が必要な事項もある。
- 広報や予約受付について、限定された条件での実施となり、ヒグマ活動期の運用をシミュレーションするに至っていない。特に五湖 Web サイト経由での予約受付、当日の五湖 FH でのツアー受付等のあり方について検討が必要。

## 2. 秋期利用適正化実験について

### 1) 準備および実施概況

3 月 3 日	知床五湖の利用のあり方協議会にて実験実施について合意。
10 月 5 日	関係者事前打合せの実施。実施要領、準備スケジュールの確認。
10 月 20 日	実験実施の周知広報を開始。
10 月 21 日	実験レクチャーを当初予定通り開始。利用者アンケート調査の開始。
11 月 12 日	実験レクチャーが当初予定通り終了。(23 日間)

### 2) 実施結果

- ・地上遊歩道でのヒグマ遭遇や荒天の影響による地上遊歩道の閉鎖が 12 回（11 日間は終日運用できず）あり。秋期の遊歩道利用において不安定な一面が見られた。
- ・地上遊歩道でのヒグマ遭遇回数は 8 回。頻発するヒグマとの遭遇や痕跡情報が、遊歩道利用者のレクチャー受講意欲に影響した可能性あり。
- ・15 分間隔でのレクチャー実施に 1 人工（植生保護期は 10 分間隔 2 人工で実施）を置き、運営コストを検証。運用において現場での大きな問題や混乱はなし。アンケート結果からも、実施間隔の拡張によって利用者の受講意識に大きな影響は見られなかった。
- ・269 回の実験レクチャーの実施あり。度重なる遊歩道の閉鎖により日ごとの実施回数にばらつきあり。日平均実施回数は約 10 回。
- ・期間中の地上遊歩道利用者は 1,560 名、内 1,337 名の実験レクチャー受講者あり。遊歩道利用者全体の約 8 割が受講、レクチャーの実施に一定の需要を確認。
- ・期間中、地上遊歩道利用者全体の約 2 割にあたる 357 名の外国人利用者あり。内 316 名がレクチャーを受講。散策前に情報を得ようとレクチャーを受講する場面が多く見られた。
- ・レクチャーを受講したことによって、ヒグマ遭遇時に安心して対処できた、遊歩道利用に関する情報を入手できて良かった、といったレクチャーの実施に肯定的な受講者の反応あり。
- ・期間中、996 部の利用者アンケートを配布。配布部数の約 3 割の 268 部を回収済み。
- ・期間中、レクチャーの実施におけるクレームや特段意見等、現場での大きな混乱はなかった。

### 地上遊歩道利用者割合（％）

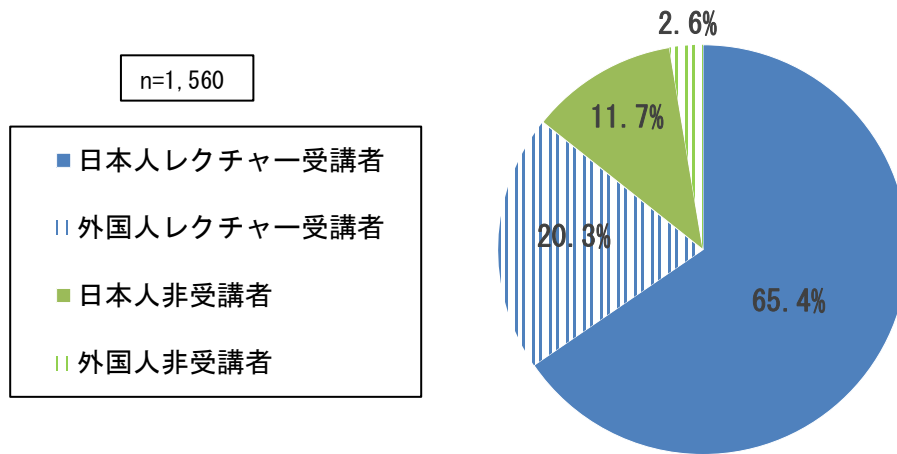


図 2-1. 実験期間中における地上遊歩道利用者内訳（％）

### 制度改定支持割合（％）

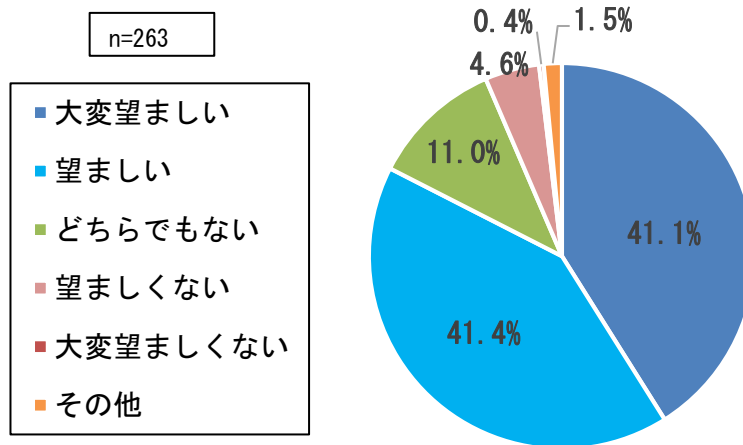


図 2-2. アンケート調査による制度改定の支持割合（％）

### 3) 課題

- 認定手続きや認定手数料の徴収といった、植生保護期運用を想定したシミュレーションや検証の実施が必要。

### 3. 来年度以降の取り組みについて

#### 1) 事務局見解

第 27 回審査部会にて下記の見解が示され、本協議会へ提案することが合意された。

- 平成 31 年までを目途に利用適正化計画改定のためのデータ収集、社会実験を継続する。
- 平成 30 年度は、社会実験の 2 カ年目と位置づけ、上記課題に対する評価・検証を行う。
- 利用適正化計画改定の実務作業は、秋期の自由利用期の取扱い、閉園時期の取扱い、地上遊歩道再整備等関連する議論と歩調を合わせ、一括して実施する。

#### 2) 今後の予定

- ・ 利用適正化計画改定に向け、来年度も引き続き社会実験を実施する。
- ・ 春期においては、未検証であった項目のデータ収集を中心に、継続して実験を実施する。
- ・ 秋期においては、より現実的な植生保護期の運用を導入していく方向性で実験を継続する。
- ・ 本協議会にて実験の実施結果を報告、次年度の実験実施について合意形成を図る。
- ・ 次年度実験実施要領（案）を作成し、次回審査部会及び協議会にて提案。